

# 世界債券型特別勘定 運用状況 (2009年8月末現在)

## 運用方針

- 主に内外の公社債に分散投資することによって、中長期的な成長を目指します。
- 基本資産配分は国内公社債50%、海外公社債50%とします。
- 海外公社債の投資部分に対し、原則として、為替ヘッジは行いません。
- NOMURA-BPI(総合)50%、シティグループ世界国債インデックス(除く日本)50%で加重平均した複合指数を上回る投資成果を目指します。
- 運用にあたっては、当社が選定した複数の投資信託を組み合わせた運用を行います。なお、運用成果の向上を図るため、特別勘定で投資する投資信託については、継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行ってまいります。

## 資産内訳

	金額(千円)	構成比
投資信託	7,238,128	98.1%
現預金・その他	139,842	1.9%
合計	7,377,970	100.0%

## 運用状況

2009年8月の世界債券市場は、Citigroup WGBI(現地通貨ベース)で0.81%の上昇となりました。経済指標の改善を受けて世界景気の底入れ期待が高まったものの、中央銀行による金融緩和は続くとの見方から主要各国の国債利回りは低下しました。米10年債利回りは、最終的に3.3%台後半まで低下し、8月の取引を終了しました。外為市場では日本円が上昇し、ドル・円相場は2.55%の円高、ユーロ・円相場は1.36%の円高となりました。このような市場環境の中、当特別勘定は0.33%上昇しました。

当特別勘定では、マルチ・マネージャー型の投資信託を中心とした運用を行っています。

8月は資金流出に合わせて「グローバル・ボンド・ファンドVA」の売却を行いました。

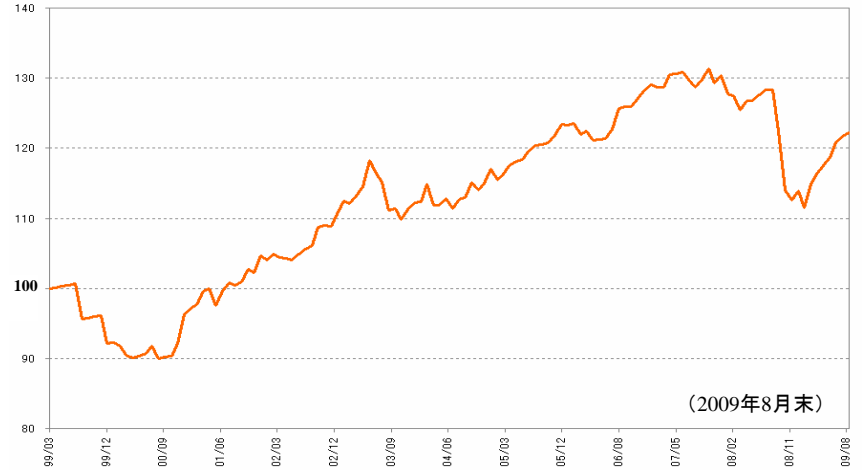
9月についても、グローバル債券運用を行う「RIC Global Bond Fund」、「グローバル・ボンド・ファンドVA」および国内債券運用を行う「ラッセル日本債券ファンドI-1」への投資を継続する方針です。なお、国内公社債と海外公社債の投資割合の調整にあたっては、「RIC Global Bond Fund」および「グローバル・ボンド・ファンドVA」における国内公社債の組入れ比率および現金等の比率を勘案しています。

## ユニット・プライス騰落状況

ユニット・プライス	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
122.15773668	+0.33%	+2.93%	+6.32%	▲4.85%	▲2.80%	+8.20%	+22.16%

(注)ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点(1999年4月1日)を「100」として数値化したものです。

## ユニット・プライスの推移(運用開始日:1999年4月1日)



## ポートフォリオの状況

### [基本配分]

海外公社債 50%
国内公社債 50%

### [組入れ投資信託(投資比率)]

RIC Global Bond Fund (49.0%) : p23上段
グローバル・ボンド・ファンドVA (16.6%) : p23下段
ラッセル日本債券ファンドI-1 (32.5%) : p24上段
現預金・その他 (1.9%)

(注)「p23上段」等と記載してあるのは、各投資信託の運用状況を記載しているページです。ご参照ください。

## ご注意

『当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を2/28ページに掲載していますので、必ずご参照ください』

■将来の投資成果を保証するものではありません

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。